

よかところ通信

2014年5月田植え号

O2Farm【オーツーファーム】 大津耕太&愛梨

〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両井 587

Tel&Fax : 0967-62-3730

E-mail: mail@o2farm.net

O2FarmWeb : www.o2farm.net

田植えが終わりました!!!「これまでで最高のデキ」と叔父から言われた苗と、パワーみなぎる若者たちのおかげで、とても順調でした。先月の通信を書いた時点では、まだ種も蒔いておらず、田んぼに水も引けていませんでした。今月のお米を送る準備をしている今は、心許ないながらも、苗は田んぼで風に揺れています。怒涛のような1カ月でした。以下ご報告です。



田植えに先立ち、乾燥して畑のようになっていた田んぼを「田んぼ」にする作業をしました。水路にたまった泥をすくい出したり、モグラの穴をふさいだりして、田んぼに水が来るようになって、それだけで「田んぼ」になるわけではありません。乾燥した土は水をどんどん吸い、ほとんど溜まりません。畦を塗り固め、トラクターで水と土を混ぜ、粘土のようにすることはじめて、水が溜まるようになります。これを昔は牛馬でやっていたかと思うと、想像を絶する大変さだっただろうと思います。機械仕事だから「ラク」というわけではもちろんありませんが、動力機械のすごさには感動を覚えます。雑草をすき込みながら、水と土を混ぜながら耕し、そのドロドロになった土を平らに均していきます。この作業を「代掻き(しろかき)」と言い、阿蘇地方では1枚の田んぼにつき2回ずつやります。「荒代(あらしろ)」と「植代(うえしろ)」と呼ばれ、2回目の代掻きが終わった後に田植えをします。



一方、苗の方は、種まきをしてから10日間程、保温と保湿の為にシートを被せておきます。光は少し通すけれども、水分は逃げないので、種は中でしっかり温められて、やがて芽を出します。タバコ位の長さになったらシートを剥ぐのですが、このタイミングがなかなか難しい。早すぎると成長の速度が遅くなるので田植えに間に合わないし、遅すぎるとヒョロヒョロの「腰のない」苗になってしまう。気温が高いと、1日で数cmも伸びるので、今日剥ぐか、明日まで待つか、とベテランでさえ判断に迷うのです。今年はそのベテランの叔父に「過去最高」と称賛された苗ができたので、出だしは上々。まだまだ先は長いですが、昔から「苗半作」といわれるので、まずは50点獲得(?)でしょうか。シートを剥がしてからは、毎日1、2回は水をかけます。うっかり水をかけるのを忘れてしまおうものなら、午後には針のように細くなって瀕死の状態に。そこで慌てて水をかけると数時間後にはまた美しい緑色に。生命の力を感じます。





ところで数年前から、近所のお年寄りから田んぼを任されるようになり、面積が倍以上になりました。面積だけならともかく、田んぼの枚数も。我が家は現在、約5ヘクタールでお米をつくっているのですが（大ざっぱに言って、サッカースタジアム5つ分くらい）、田んぼの枚数はなんと約40枚。形も大きさも様々です。先日訪れた秋田県の大潟村は日本最大の干拓地で、田んぼの面積は1枚で2ヘクタール以上とのこと。5ヘクタールだったらたったの2、3枚ということになります。1枚毎に畦や四隅があるし、癖も違う。耕太から、「子供が40人いると思うといい」と言われました。それぞれの性質を把握して、水を溜めるタイミングや量を調節するのが私たち親？の仕事だという意味だと理解しました。40人も子供がいるのは大変ですが、だからこそ変化に富んだ景色があるんですね。

苗と田んぼの準備が整ったらいよいよ田植え。人生で5回目の田植えを迎えた三男・サンタローはだいぶ要領も得てきて、それらしい動きや発言をします。今季のヒットは「バックモニター」。苗がちゃんと植わっているかをチェックする役割です。保育園に行く気はサラサラない様子ですが、しっかり手伝ってくれるのでよしとします。男の子としては、保育園より田植え機の方が面白いんでしょ



うね。滅多なことでは私の作業を中断させない彼が「お母さん、助けて〜」と頼みに来たので何かと思えば、長靴が抜けなくなったとのこと。ハマってる時の様子を想像して笑ってしまいました。

研修2年目に入ったクンシヤ、日本滞在中のイスラエル人・ローマンに加え、田植えの週は体験研修に来ているツッチー、それに天神さんファンの方なども手伝いに来て下さり、大変賑やかでした。人手があるというのはスゴイ事だと実感しました。同時に、私たちより年下の若者たちが、将来の夢に向けた一歩として我が家に来てくれていることを非常に嬉しく感じました。私たちも沢山の方に支えられてここまで来ましたが、阿蘇での暮らしも10年を越え、次の世代に少しでも力を添えることができたら本望です。



田植え中にも出番の多いエリ。知事とも対談しました。法人化や大規模化が求められている中、なんで私たちのような家族経営の農家が注目されるのだらうと思っていたのですが、つい最近、「国際家族農業年」に関する記事を読んで納得しました。世界的には家族経営こそが持続的な方法だと捉えられているとのこと。なるほど。地に足をつけた無理のない暮らしが見直されつつあるのかもしれないですね。



さて、そんな相変わらずな我が家ですが、田植えが終われば、後は飽くなき草との戦い。コイやカモが来る準備をしたり、畦の草を切ったり。忙しいことには変わりはないですが、初夏の気持ちいい風を感じながら、まずは梅雨入りまで楽しく農作業をしていきたいと思います。どうぞ皆様もお元気でお過ごしください！